

私たちの町のために

小学校二年生の頃、近くのみぞでつかまえたどじょうを学校に持って行きました。水そうに入れかえるために水道の水を入れに行こうとした時、先生に

「水道の水は入れたらあかんで。すぐに弱っちゃうから。」

と言われました。私たちは、すぐに死んでしまふのかと思って、急いで外へ出てビンでみぞの水を一生懸命すくいました。無事、どじょうは死なずにすんでホッとしました。その後先生に、

「わざわざ外に水を取りにいってくれたん。ありがとう。」

と言ってもらって、私はどじょうのためになつたんだなと嬉しかったです。

あれから四年ほどたち、小学校六年生の頃は、金魚やどじょうのすいそうの水かえも、

天理市立福住中学校 一年

岡西 紗知

水道の水を何日か置いてから入れるなどしつかり考えていました。でも私は二年生の頃のことを思い出すと、とても良いことをしていたんだと気付きました。八才だから何も分かっていなかっただけでしたが、十二才になつてよく考えてみると、自然の生き物を大切にしていっていきつかけがそこにあると思います。

私が住んでいる地域は山の中で、イノシシやシカなどの動物やどじょうやカエル、小さな魚などの生き物、色々な植物が身近にあります。畑や田んぼでお米、野菜、果物も育てています。もちろん私たちの家で山水を使っているところもあります。こんな自然に恵まれた町がいつまでも豊かであつてほしいと私は願っています。いつまでも豊かな町であるためには生き物や植物がのびのびと育つことが一番

だと思いません。でも、のびのびと育つためには、水が欠かせません。私たちが流した洗剤や食べ残しなどを川に流すと川の生き物が死んでしまうし、山の中を流れている水が汚れていては動物がいなくなってしまう、植物も大きく育ってくれません。私は自分たちのせいで自然をこわすことは絶対にしたくありません。そのため、私たちにできることはいくつあるでしょうか。

まずは、川に流してはいけない物、洗剤や食べ残し、油、ゴミなどを流さないことです。なかなか難しいことかもしれませんが、一人一人が少しずつでもやっつけていくと、周りの川が少しずつきれいになっていくはず。他にも、近所の人と協力し地域のゴミ拾いをすると、ということもあります。やっぱり人通りの少ない道だから大きいゴミから小さいゴミまで捨てられていきます。私は夏休みに同じ分団の子と一緒にゴミ拾いをします。毎年ゴミ拾いをしていくけれど、ゴミが減っている気がしません。通学している時に、いくつかゴミがおちているのを見かけます。私はゴミ拾いをするだけでなく、地域の人々に呼びかけも

するとよいと思いません。もちろん自分で捨てるのはいけないし、ゴミを見つけたらこまめに拾ってほしいとよびかけるとよいと思います。私の家の近くにはゴルフ場があります。だから、色々な所から知らない人が車で来てゴミを捨てていくことがよくあります。そんな人に呼びかけるとは出来ないのです、ポスタ―や看板などを書いて少しでもゴミを少なく出来たらいいと思います。

こんな小さな積みかさねがきれいな町、豊かな町へとかわっていくと嬉しいです。何か自分の体験で、考えていくきっかけがあれば自分から進んで何かに取り組んでいけるはず

